

第三者評価結果入力シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-734

③ 施設名等

名称：	ドルカスベビーホーム
施設長氏名：	矢内 陽子
定員：	25名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1969/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人唐池学園
職員数 常勤職員：	40名
職員数 非常勤職員：	14名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	33名
有資格職員の名称（イ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称（ウ）	公認心理師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称（カ）	医師
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	3グループ体制
施設設備の概要（イ）設備等：	宿泊可能な親子支援室、本体施設以外の小規模グループケア室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<理念>

子どもの幸せのために

<基本方針>

- 1 情緒の安定をはかり、情操豊かな人間性を育てる
- 2 自ら生活を創り上げていこうとする自主性を育てる
- 3 強い心と理想をもって、現実に向かっいこうとする志向性を育てる
- 4 仲間のことも考え育ちあっいこうとする連帯性を育てる

⑤ 施設の特徴的な取組

○家庭支援専門相談員を2名配置し、また、心理士がフォローして、保護者との関係作りを行っている。保護者にはできるだけ面会に来てもらうよう促している。保護者の面会は面会室は使わず、直接、子どもの養育場で受け入れている。保護者に子どもの普段の様子を知ってもらい、養育の状況を見てもらい、実際に関わってもらっている。面会のない子どもには、職員が一对一の時間を多く持ち、「いつも見ているよ、そばにいるよ」という気持ちを伝えながら養育している。退所後のアフターケアにも取り組んでいる。

○里親支援専門相談員を2名配置し、児童相談所や家庭養育支援センターと連携しながら、里親関連の研修会の手伝いなどを行っている。具体的には里親委託の推進、啓発運動、マッチング、里親サロンの開催、さらにアフターケアなど、様々な活動を行っている。地域の「ふれあいまつり」では、パネルを展示したり、里親啓発のパンフレットを配布している。また、里親センター「ひこばえ」と連携して、多岐に渡った活動を行っている。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/1	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/20	

前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）	
-------------------	-----------	--

⑦総評

○ドルカスベビーホームでは、新生児から3歳までの子どもが、「るる」「ぼぼ」「らら」の3つのグループに分かれて生活を送っている。「らら」では小規模ケアに取り組み、4人の子どもが暮らしている。日中小規模ケアも実施して、「るる」「ぼぼ」の年齢の高い子ども4人が、同一敷地内にある部屋を使って、少人数の生活を体験している。また、緊急一時保護に対応するとともに、ショートステイの受け入れに向けて体制を整えている。

○自然に恵まれた環境を活かし、天気の良い日は、子どもたちが積極的に外に出掛け、のびのびと生活を送っている。買物や遠足、地域の行事への参加などを通し、地域の方とのふれあいを大切にしている。施設内の生活だけでなく、地域に支えられながら、子どもたちが豊富な体験を積み重ねることができるよう取り組んでいる。

○子どもたちにはのびのびと育てほしいと願っている。子どもたちは自分の好きなレゴやミニカー、ぬいぐるみなどで遊んでいる。職員は、大人主体にならないこと、「こうでしょ」と決めつけないこと、子どもの意思を尊重することなどを心掛けている。

○0歳の乳児に対して、職員はしっかりと表情を見ながら話しかけ、応答的保育を行っている。子どもたちは担当の職員に抱っこしてもらうのが大好きで、職員との愛着関係ができています。職員は担当児の対応で悩むこともあるが、ホーム内の他の職員に相談できる体制がある。子どもたちは職員間の関係を見て、どの職員にも安心して身を委ねている。こどもたち一人ひとりに担当の職員を置いている。

○職員の中に玩具係があり、子どもが自由に選んで遊べる玩具や大人が管理して使う玩具など、月齢に合わせてレパートリーを多くして、選べるようにしている。「自由に主体的に」を意識した養育を行い、子どもたちは自由に好きな物を自分で出して遊んでいる。年齢が上の子どもは、みんなで家を作る、模造紙で何かを作る、椅子に座って何かを集中して行うなどの遊びを取り入れて、友だちとの関係を育てている。

○栄養士が栄養バランスの良い献立を作成している。また、季節の旬のものを多く取り入れた献立としている。小規模グループでは、ごはんやみそ汁は、子どもと一緒にグループ内で作り、子どもたちは調理の音や、においを感じながら食事をしている。時には、子どもと一緒にみそ汁の具を買いに行ったりしている。施設内の畑で、オクラや人参、キュウリ、ブロッコリーなどの野菜を育て、収穫して食べたりしている。

○看護師を複数名配置し、養育の現場に入っている。毎朝、鼻水、咳、喘鳴、機嫌、ミルクの飲み方など、子どもの状態を確認して記録に残している。元気に目覚める子どもが起きてこないなど、いつもと違うことがあると、一人では判断しないようにして、その日の出勤者と相談して判断している。看護師が出勤していれば相談している。養育者は日常の様子をわかっているのので、何がおかしいかをすぐ判断し、受診につなげたりしている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の第三者評価の受審は乳児院を取り巻く状況が大きく変化している中、改めて自施設での取り組みを見つめ直す機会になりました。

評価全体を通して様々な取り組みを計画に基づいて明示し実施すること、取り組みの結果やきまりを文章化して示していくという点に課題があると再認識しました。施設の強みは引き続き活かしていけるよう、弱みは改善に向けて職員一同力を合わせて取り組んでいきたいと思えます。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設の理念は、ホームページに掲載する他、施設の玄関にも掲示して、保護者や来院者に周知を図っている。職員の入職時には、マニュアル類を配布して、冒頭に理念を示している。また、月1回開催する職員会議の場で説明している。子どもの入所には基本保護者の同行をお願いしており、家庭支援専門相談員が入所オリエンテーションの中で理念を説明している。月1回、「お便り」を保護者に発送して、子どもたちの様子を知らせている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○
【判断した理由・特記事項等】		
要保護児童対策地域協議会や市の社会福祉協議会の会議、県との定期的なヒアリングなどを通して、社会福祉事業全体の動向の把握に努めているが、分析までには至っていない。職員会議の他に、月1回、部屋会議を開催しているが、必要な情報は、会議の前に、職員に回覧している。また、3ヶ月に1回、職員会議の中で予算会議を行い、それぞれの係が、予算の執行状況などを確認している。法人内の事業に動きがある時は、職員会議で情報を共有している。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b ○ ○ ○
【判断した理由・特記事項等】		
現在、経営状況で大きな課題はないが、毎月の会計指導や理事会などにて状況の把握に努めている。退職者がゼロではないため、人材の育成には力を入れ、法人の新人職員研修やフォローアップ研修に参加する他、外部から講師を招いて、全職員を対象とした院内研修を開催している。3ヶ月に1回行う予算会議では、事業費の動きなどについて、職員に周知し、考えてもらっている。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	b ○ ○
【判断した理由・特記事項等】		

中・長期的な計画は、法人全体で策定している。国の動向を確認する他、施設長、副施設長、家庭支援専門相談員などが県とのヒアリングに定期的に参加して、職員会議で内容を職員に説明している。職員には、今後の乳児院がどういう方向に向かっているか伝えている。小規模化の流れの中で、日中小規模に取り組んだり、里親支援専門相談員を2名配置している。全国の乳児院の研修に、施設長や職員が参加して、動向の把握に努めている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人の中・長期的な計画を踏まえ、事業計画の「本年度の取り組み」に内容を反映している。施設整備についても、建物の内装や壁紙の貼り替えなどを計画的にすすめている。取り組みの成果について具体的な数値は設定していないが、職員会議などで職員が継続して話し合い、事業報告書につなげている。また、職員の意見を集約して、次の計画に反映している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

毎月開催する職員会議やリーダー会議、看護師会議で、職員の意見を聞きながら、事業計画の策定に反映している。事業計画書は、最終的に施設長と副施設長、事務(心理士、里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員)でまとめて、3月の理事会に諮っている。また、3月の職員会議の場で、内容を職員に説明している。計画の内容は、助成金の交付状況などにより、次年度に延期するなど、調整しながら実施している。

②	7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

保護者会はないので、毎月、「お便り」を保護者に発送し、行事の予定などを知らせているが、事業計画書そのものは示していない。事業計画を保護者にどう伝えていくか、保護者との関係性をどのように構築するかは、今後の課題として捉えている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【判断した理由・特記事項等】

日々の養育の振り返りは、月1回開催する各部屋会議で行っている。質の向上に向けて、非常勤職員を含めた全職員が、年1回、人権ヒヤリハットアンケートに取り組んでいる。また、ヒヤリハットの他、プラス面のにやりホットも収集して、養育・支援に活かしている。年間の研修計画を策定し、必要と思われる研修に、積極的に参加している。院外研修は心理士、院内研修は里親支援専門相談員が研修係として全体をまとめている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○	

【判断した理由・特記事項等】

毎月の職員会議では、養育計画や養育の反省を文書にまとめ、職員が内容の見直しを行っている。毎月、各部屋の目標をベースにして「月間指導目標」を立てており、見直しの内容は、次月の「指導目標」に活かすよう取り組んでいる。にやりホットやヒヤリハット、第三者評価、監査の結果も文書化して、職員が内容を共有し、改善策を検討している。職員全体で、組織として取り組むべき課題を明確にして、改善策を検討している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【判断した理由・特記事項等】

職員会議では、児童相談所からの情報の報告も含め、施設長が意見を述べる時間を設けている。年1回、施設長と職員の個人面談を設ける他、職員から随時相談を受けることができるよう配慮している。施設長不在時の対応については、緊急入所などに備えて、連絡網を作成し、職員が確認しやすい場所に掲示している。有事の際の対応は、現在、ハザードマップを作成中である。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○

<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

個人情報に関する研修や、施設長研修、全国の乳児院の研修に、施設長が参加して、遵守すべき法令などを理解するよう努めている。入手した情報は、職員会議で職員に周知している。虐待に関する事など、より配慮が必要な個人情報が多く、パソコンのセキュリティの強化を図るなど、具体的な取組を行っている。保護者の面会は、面会室などは使用せず、直接、養育の現場に入って子どもと関わってもらっているので、他の子どもの個人情報に触れることがないように、書類などの取り扱いに注意している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設内の会議は、可能な限りすべての会議に施設長が参加している。会議の場では、施設長の意見よりも、できるだけ職員の声を聞くようにしている。これまで養育の現場を長く経験していたことから、職員一人ひとりに寄り添い、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、時間がある時は、できるだけ養育の場に入り、気が付いたことは、その場で職員にアドバイスしている。事務室にいるだけでは、職員との良好な関係作りはできないと考えている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【判断した理由・特記事項等】

経営の改善や業務の実効性を高めるため、行政や他施設との話し合いを継続して、小規模ケアやショートステイなど、多機能化に向けて実現可能な体制作りに努めている。人員配置に余裕がある時は、日中小規模ケアの実施に取り組み、職員2人が子ども4人のケアを行っている。有給休暇の取得率100%を目指し、ほぼ達成している。コロナ禍では、やむを得ず職員が休む時は、特別休暇として対応している。リーダー会議などを通し、現状の養育の評価や改善に取り組んでいる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○

	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。 (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---

【判断した理由・特記事項等】

職員の採用は、ホームページやハローワークにて行い、求人サイトなどは活用していない。里親支援専門相談員を2名配置し、次年度は心理士も2名配置する予定である。職員には意向調査を実施している。職員配置にも余裕が出てきており、フリー勤務も増加し、日中小規模ケアの実施により、子どもへの還元も図ることができている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人全体で、新任職員の研修や中堅職員の研修を企画して、職員の育成に取り組んでいる。理事長からは新任職員に対して、「他の施設でも通用する職員になってほしい」ことを伝え、院内研修では施設長より、「自分で考えて行動できる職員」になってほしいことを伝えている。人事管理は、就業規則に明文化し、職員の意向を確認して、処遇改善を行っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

働きやすい職場作りとして、有給休暇の取得率100%に取り組み、ほぼ達成している。残業の申請を含め、有給休暇の取得は、休暇簿にて把握している。施設長との個人面談や意向調査などを通し、職員の意見を聞く体制を整えている。また、月1回、外部の臨床心理士に相談できる機会を設け、職員のメンタル面の安定を図っている。ハラスメントの研修会も開催している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○

	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設職員として求められる職員像を明文化し、繰り返し説明して、職員間で共有している。目標管理制度は設けていないが、施設長との個人面談の中で、自主的に個人の目標を考えるよう促している。新人職員は、すべての勤務を初めの2回はダブル勤務で行っている。各職員に指導担当の先輩の職員が付き、チェックシートを用いて指導している。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人の「福祉人としての基本的な心得」を職員に配布し、必要とされる職員像を示している。院外研修は心理士、院内研修は里親支援専門相談員を担当として、研修計画を作成している。院外研修は、年度途中に研修案内が来ると適宜検討して、計画を修正している。院内研修は、実施してほしい研修テーマを職員にアンケートを取り、年2回程度開催している。院内研修は、外部から講師を招き、直近では防犯対策等の研修を行っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員各自が必要な研修に参加できるよう、研修計画を立てている。院外研修には、職員が年1回は参加できるよう調整している。研修の参加は職員の希望を尊重しているが、担当児の状況などに合わせて、参加者を決めることもある。院外研修に参加した職員は、研修報告書を提出し、全国の乳児院研修会については、職員会議で研修報告を行っている。新人職員については、部屋のリーダーや先輩職員がスーパーバイザーとして関わり、チェックシートの項目ごとに学ぶ機会を作っている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○

<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

担当職員を置き、実習生を積極的に受け入れている。指導マニュアルを整備し、どの職員が担当しても、指導内容が変わらないよう配慮している。現在、短大や大学、専門学校から、保育士を目指す学生を20名ほど受け入れている。また、里親の実習にも、積極的に対応している。実習期間中には、里親支援専門相談員など専門職が話す時間も設けている。職員も自分たちの通ってきた道であり、里親の実習も理解し、一所懸命、対応している。実習生の受け入れは、施設の役割と捉え、今後も受け入れを継続していく予定で。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人のホームページに、基本方針や予算などを掲載している。また、年1回発行する法人の広報誌「雑品倉庫」にも、決算報告を掲載して、運営の透明性を確保する情報を公開している。「雑品倉庫」は、ホームページでも閲覧できるようにしている。地域のお祭りに積極的に参加し、「ふれあいまつり」では、パネルを展示したり、里親啓発のパンフレットを配布している。ショッピングモールにパネルを展示し、里親啓発活動に取り組んでいる。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

就業規則や経理規程を整えている。職員は出張の経費などの仕組みは理解しているが、経理規程の詳細までは周知していない。監事監査の指摘事項は、その都度改善している。また、月1回、会計事務所の方が来院し、指導やアドバイスを受ける機会を設けている。事務、経理、取引に関わる事項は、法人本部の事務局長に相談できる体制になっている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	

	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	

【判断した理由・特記事項等】

コロナ禍により、地域の行事への参加や、地域への買物を控えていたが、今後は以前のように、地域との交流を広げていきたいと考えている。日常的に、地域の方に挨拶などは行っている。子どもたちの年齢が低いことから、まずは室内の行事は避け、運動会など大きなグラウンドを使用する催しに参加していく予定である。食育の一環として、スーパーマーケットや野菜の直売場に、散歩を兼ねて、子どもたちが出かけ、地域と顔見知りの関係になるよう努めていく予定である。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

施設長を窓口として、ボランティアの受け入れを行っている。施設に合ったボランティアを受け入れて、雇用につなげている。現在はコロナの様子を鑑みながらの実施であるが、夏休み期間中に、地域の高校生の体験学習を受け入れる他、施設の見学希望に柔軟に対応している。他施設の職員や大学の研究室の見学希望などに対応している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

児童相談所とは、定期的に連絡会を開催する他、随時連携を取っている。関係機関のカンファレンスやネットワーク会議にも参加している。月1～2回、地域のメンタルクリニックのドクターが来院し、子どものアセスメントを行っている。防災訓練では、消防署の協力も仰いでいる。子どもたちの退所後に関わる機関はまちまちなので、児童相談所と連携して対応している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

要保護児童対策地域協議会に継続して参加し、地域のニーズの把握に努めている。また、地域のお祭りや行事には積極的に参加して、地域住民との交流を図っている。地域内の里親の支援も担っており、里親センター「ひこばえ」の運営に携わっている。乳児院の特性から、地域に向けた活動は、どうしても受動的にならざるを得ない現実がある。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

地域で開催される「ふれあいまつり」には、定期的に出店している。地域内の里親の支援も担っており、里親センター「ひこばえ」の運営に携わっている。また、ショートステイに取り組む予定があり、現在協議中である。災害の発生に備え、5日分の非常食や液体ミルク、オムツなどを備蓄し、栄養士と担当職員が、月1回点検している。現在、BCP（事業継続計画）を作成しているところである。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「養育マニュアル」を全職員に配布している。理念や基本方針については、新任職員の研修時に学ぶ機会を設けている。年3回、法人の全体研修を開催し、また、院内研修や事例検討会を通し、子どもを尊重した養育・支援の共通の理解に努めている。院外研修に参加した職員は、内容に応じて、職員会議などで研修報告を行い、内容を共有している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「養育マニュアル」に、職員の基本姿勢を示している。保護者の面会は、事前に家庭支援専門相談員が対応方法を説明している。面会室などは使わず、面会は養育室内で行っているため、他の子どもたちの名前が、面会者にわからないよう配慮している。また、面会時に子どもの動画撮影を行っている保護者もいるため、他の子どもが映らないよう配慮している。日頃より、子どものプライバシーの保護を第一に考えて養育している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

希望があれば、入所前に親子見学の受け入れや説明を行い、支援者や里親などにも説明を行っている。また、面会のない保護者には、児童相談所を通じて情報を提供して、入所時だけではなく、個別の対応を心がけている。保護者には、「お便り」などを送付している。子どもの意見は、小さな子どもでも、場所を選んで聞き取るようにしている。

②	31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの養育・支援は、保護者に分かりやすく説明して進めていくことを基本としている。保護者によっては、説明が困難な場合もあり、カンファレンスの書類などを渡して、理解してもらっている。保護者の意思を尊重することを第一としているが、説明に関して特にルール化はしていない。職員の基本姿勢は、開設時から一貫して継続している。また、養育の様子は毎日書面に残し、誰でも保護者に説明できるようにしている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの退所時には、発達や養育の状況をまとめたものを、移行先の施設や保護者に渡している。移行予定の施設とは、ネットワーク会議などで情報を共有している。また、子どものアフターケアとして、退所後の施設訪問や家庭訪問など、見守りを行っている。施設に相談窓口を設置し、退所後も保護者からの相談を受ける体制を整えている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
---	-------------------------------------	---

(乳児院) <input type="checkbox"/> 子どもとの日々の関わりのなかで、子どもの満足度を把握するように努めている。	<input type="radio"/>
(乳児院) <input type="checkbox"/> 職員等が、保護者等とのコミュニケーションを可能な範囲で図り、定期的に保護者等の満足度を把握している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 把握した子どもの満足度を集約する担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもたちに合わせた養育・支援を行い、保護者から話を聞き取る体制を整えている。乳児院の子どもたちの年齢は低く、直接満足度を聞き取りすることは難しいため、日頃の生活の様子から、職員が満足度を把握するようにしている。また、職員会議などで話し合いを行う他、担当制を取り、各部屋の会議やカンファレンスを通し、子ども一人ひとりの状況を理解している。日々の生活の中で、子どもの満足度の把握に努めている。

(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもの入所時に、苦情受付の仕組みや担当者について、保護者に説明している。玄関入口に意見箱を設置して、保護者が苦情や意見を述べやすい体制を作っている。直接施設に苦情を申し立てにくい場合は、児童相談所でも受け付けていることを説明している。苦情を受けた場合には、職員会議で対応し、解決に努めている。苦情の記録の保管や職員間の周知、内容の公開などは、今後の課題として検討している。

②	35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

さまざまな悩みを抱えた保護者には、個別に聞き取りを行う場所を設定するなど、配慮している。保護者が話しやすい場所を用意し、相談は電話でも対応して、保護者とのコミュニケーションを図るよう努めている。相談の内容は、職員会議などで、家庭支援専門相談員から職員に報告して、職員全体に周知するようにしている。

③	36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

対応マニュアルは適宜見直しを行っている。保護者からの相談や意見は、職員会議で内容を共有し、対策を講じている。保護者からの意見はいつでも受け付け、施設長の不在時も、必要に応じて、施設長に連絡することになっている。また、保護者の面会時には、できるだけ意見や声を聞くよう心掛けている。意見箱は設置しているが、保護者へのアンケートは実施していないため、今後の検討課題としている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<input type="checkbox"/>	リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
<input type="checkbox"/>	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
<input type="checkbox"/>	事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【判断した理由・特記事項等】

リスクマネージャーは特に置いていないが、施設長がその役割を担っている。事故が起きそうな時や、実際に起こってしまった時は、ヒヤリハット報告や事故報告などを元にして、職員会議などで内容を共有して、話し合いを行っている。また、これらの事例を共有することで、今後の養育に活かしている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
<input type="checkbox"/>	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
<input type="checkbox"/>	感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

看護師が中心となり感染症対策を実行し、マニュアルも整備している。建物の構造上、養育環境は個室化されていないが、過去の感染事例などを踏まえて、ゾーニング(汚染されている区域と、汚染されていない区域を区分けすること)対応をしている。看護師不在時は、フローチャートにしたがって感染症の対策を行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
<input type="checkbox"/>	災害時の対応体制が決まっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
<input type="checkbox"/>	子ども及び職員の安否確認の方法が決まられ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

毎月、避難訓練を計画し、火災や地震などを想定した訓練を実施している。防災係を置き、災害備蓄品などを整備している。防災マニュアルに基づき、施設長を中心に災害時の連絡体制を整えている。保護者への連絡方法も、職員に周知している。また、同一敷地内に法人本部や他の施設があり、連携や応援体制を整えている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○
【判断した理由・特記事項等】		
標準的な実施方法は、「養育マニュアル」に明記して、職員の採用時に配布して周知を図っている。職員体制も小グループ化されており、チューター制度（指導的職員による教育）により、職員への教育を行っている。マニュアルにより標準的な実施方法は確立しており、特に確認する仕組みはないが、ヒヤリハットや事例により、振り返りを行っている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
入所後3ヶ月、年1回は必須、その他必要に応じて随時、カンファレンスや合同ミーティングを行い、子どもたちの養育・支援を小グループ単位にて検討している。保護者の意向も職員間で共有し、自立支援計画に反映している。子どもの状況に合わせ、自立支援計画の見直しを行っている。養育・支援の内容は、常に見直しを行っている。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
【判断した理由・特記事項等】		

子どもの自立支援計画は各担当が作成し、家庭支援専門相談員も内容を確認し、共同で修正を行っている。乳児院は、子どもの年齢が低く、本人の意向確認は難しいため、子どもの日々の養育状況を確認して、自立支援計画に反映している。看護師も養育現場に入り、健康状態の把握以外にも養育支援に関わることで、他職種も同一の目線に対応している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画は定期的に見直しを行っている。見直し後の計画は、職員会議にて情報を共有し、周知している。特に見直しの仕組みはマニュアル化はしていないが、子どもの状況変化や、保護者の声などに応じて、行うこととしている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

養育・支援の記録や日誌などは、パソコンに入力して職員間で共有している。記録はグループ毎に行い、養育の現場に活かすようにしている。記録の書き方については、研修や職員教育で統一化を図り、詳細な記録となるよう努めている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	○

【判断した理由・特記事項等】

個人情報の取り扱いに気を付け、管理方法や閲覧方法を決めている。記録類の管理は施設長が務めている。外部の人が出入りする際は、記録物から情報が漏れないよう配慮している。パソコンの情報の取り扱いも、ルールを決めている。

内容評価基準（22項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

権利擁護は乳児院の基本的役割と職員は意識している。権利擁護のマニュアルを整備し、全国乳児福祉協議会の乳児院倫理綱領、乳児院養育指針などを基本とし、職員は内容を共有している。日々小さなことでも気付いたことは「ヒヤリハット」に記録し、心理職員が分析している。大きな声で子どもに話しかけてしまう、寝かせつけの時の促しが強いのでは？などのヒヤリハットが多く、職員はグループワークで支援の仕方を実際に確認しながら、意識を高めている。半面、「にやりホット」として、子どもや職員の行動などで、ホットしたことを記録に残し、職員のモチベーションを上げるようにしている。

(2) 被措置児童等虐待の防止等

① A2 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し職員に徹底している。	○
<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により、不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員は子どもたち一人ひとりを慈しみながらかかわっている。「ヒヤリハット」の振り返りで、具体的にどのような言動が不適切なかかわりか話し合っている。一人ひとりの子どもに、より良いかかわりを持つために、食事場面で「ぜんぶ食べて」「好き嫌いなく食べなきゃダメ」などの声掛けがあると、その場で先輩職員が「どうしたの」と、職員が感情的になって声掛けをしていないかを確認しながら、話を聞いて注意を促している。職員はその場で自分の言葉かけを振り返り、「無理強いしない」ことを確認しながら支援している。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① A3 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育てている。	a
<input type="checkbox"/> 乳幼児に対する受容的・応答性の高いかかわりを心がけている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。	○
<input type="checkbox"/> どの乳幼児も保護者等、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかかわりを持つことができる体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した「担当養育制」をとっている。	○

<input type="checkbox"/>	□担当養育者と個別のかかわりを持つことができる時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体ふれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

0歳の乳児に対して、職員はしっかりと表情を見ながら話しかけ、応答的保育を行っている。子どもたちは担当の職員に抱っこしてもらうのが大好きで、職員との愛着関係ができています。職員は担当児の対応で悩むこともあるが、ホーム内の他の職員に相談できる体制がある。職場を離れて「同窓会」「親睦会」など、気持ちをリフレッシュできる場があり、保育士、看護師、心理、事務すべての職員に支えられているという安心感で仕事に向かうことができている。子どもたちは職員間の関係を見て、どの職員にも安心して身を委ねている。

②	A4 子どもの生活体験に配慮し、子どもの発達を支援する環境を整えている。	a
<input type="checkbox"/>	□日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人ひとりにあった形で進められている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□一人ひとりの子どもの欲求や要求に対し、抱いたり声をかけるなど、タイミング良く気持ちを受け止め対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもの個々の発達や状態に応じた適切な言葉を用い、穏やかに言葉かけをしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などの個別化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□自然と触れ合える外遊びが養育者との十分なやりとりを交え提供されている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもたちには伸び伸びと育ててほしいと願っている。玩具係が玩具を配置し、子どもたちが自由に取り出せる位置に玩具類を置き、子どもたちは自分の好きなレゴやミニカー、ぬいぐるみなどで遊んでいる。個人のおもちゃは、子どもと一緒に外出した時に購入している。トミカのどれを購入するか、子どもたちは、何度も何度も迷い、1時間ほど考えて買ってきたりしている。人的環境としての職員は、大人主体にならないこと、「こうでしょ」と決めつけないこと、子どもの意思を尊重することなどを心掛けている。

(2) 食生活

①	A5 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□授乳は、自律授乳を基本としつつ、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□授乳時は、乳幼児を抱いて、目を合わせ、やさしく言葉をかけ、ゆったりとした気持ちで飲めるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□一人飲みをさせていない。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□生体リズムの乱れなどで自律授乳や自発的意思の授乳が難しい乳幼児には、その子の状態に応じた授乳を工夫している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

新人職員が入職した時には、調乳方法や飲ませ方などを先輩職員が教えている。「ドルカスマニュアル」では、授乳での注意点などを明示している。今までの生活で、心地よい抱っこをされず、寝たままミルクを飲んでいたり子どもなどが入所している。保育士が抱っこをして、目を見て声かけしながらミルクを飲むことに慣れるまで、時間がかかる子どももいる。今日は3分間抱っこができたなど、心地よい、人のかかわりを取り戻すことができるようかかわっている。授乳は子どものペースに合わせている。一人で飲めるようになった子どもは、職員が傍で見守っている。

②	A6 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
---	----------------------------	---

<input type="checkbox"/>	在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人ひとりに合わせた食の取組が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物や味に慣れさせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食事をいやがったり遊びだしてしまう場合にも、時間をかけてゆったりとした気持ちで与えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	噛む力を養うために、食品の種類や調理方法を工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	栄養士や調理員等は養育者とともに、咀嚼や嚥下の状況を確認し発育状況や体調を考慮しながら離乳食を進めている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

自発的に食べたいという気持ちが出てきたときに、職員と栄養士が検討して、離乳食を進めている。離乳食の準備期間をベビーフード時期として、ミルク以外の食べ物に慣れる期間を作っている。重湯から始め、人参やかぼちゃなどの野菜に慣れていく期間としている。その後、離乳食を、初期、中期、後期、完了期にそって進めている。手で持つて食べることができるようになると、軟らかく煮たスティック状の野菜などで、自分で食べる練習をしている。栄養士が子どもの食べ方や様子などを観察している。現在、離乳食の後期の子どもが5人、完了期の子どもが4人いる。離乳食の途中で、卵などのアレルギー反応をチェックしている。アレルギーのある子どもは、現在いない。

③	A7 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a	
	<input type="checkbox"/>	食事場所は清潔に保たれ、明るく楽しい雰囲気でき食事ができるよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	子どもが食べやすいように、身体に合わせてテーブルと椅子の高さを適切に調整している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	食前の手洗い、食前食後のあいさつ、食後の歯磨きなどが定着するよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	食事の食べ方や量にばらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと視線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	日々の食生活を通じて食べたいものや好きなものが増える工夫がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	お腹がすくリズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人ひとりの発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。	<input type="radio"/>	

【判断した理由・特記事項等】

コロナ禍では、職員と一緒に食べることを控えていたが、現在、元のように一緒に食べる準備を進めている。鍋料理では子どもが喜ぶ星形の人参を用意したり、行事食は子どもたちが目で見て楽しめる様々な工夫をしている。バイキングでは、子どもたちが好きな物を自由に食べるなど、無理強いせず、自然に食べたいと思えるよう工夫をしている。また、調理員が今日使うキャベツやジャガイモなどの食材を見せに来てくれて、子どもたちは野菜の感触を楽しんでいる。「食べることは楽しいこと」を主に置き、無理強いせず、欲しいものを食べられるだけ食べることを目指している。

④	A8 栄養管理に十分な注意を払っている。	a	
	<input type="checkbox"/>	十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	栄養だけでなく季節感を取り入れた食事が提供されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に個別に対応した食事を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	乳幼児の嗜好や栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	さまざまな「食育」への取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/>	発達に応じて、食事の準備や食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに興味関心を持つことができるよう工夫している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

栄養士が栄養バランスの良い献立を作成している。また、季節の旬のものを多く取り入れた献立としている。小規模グループでは、ごはんやみそ汁は、子どもと一緒にグループ内で作り、子どもたちは調理の音や、においを感じながら食事をしている。時には、子どもと一緒にみそ汁の具を買いに行ったりしている。施設内の畑で、オクラや人参、キュウリ、ブロッコリーなどの野菜を育て、収穫して食べたりしている。栄養士が牛乳パックを使用して、パックを広げるとキャベツの切り口が出てくるなど、手作りのおもちゃで食育に取り組み、子どもたちが食に興味を示すよう働きかけている。

(3) 日常生活等の支援

①	A9 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 寝ている生活が主なときは前開きのものを、動きが活発になったら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

入所時は、施設でストックしている衣類を使用し、高月齢児は遠足で出掛けたときなど、それ以外は担当が衣類を購入してくる。タオルケットはまとめて係が購入し、その中から好きなものを選び、自分のものとして大事に使い、退所するときにはそれを持っていく子どももいる。乾燥肌の子どもが多いため、特に肌着の素材に気を付けて、刺激の少ないものを購入している。年齢が上の子どもは、好きな洋服を選んだりして、個人のタンスに自分のものを整理している。

②	A10 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 室内の環境として、温・湿度、換気、明るさ、静かさ、音楽などを快適に保っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 寝具の環境として、肌に触れる素材は綿素材を用い、広さ、形状、硬さなどを快適に保っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 快適に十分な睡眠をとれるよう、個々の乳幼児の発達・心理に配慮した職員の対応など具体的な独自の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

新生児は夜間もミルクを飲むため、新生児が多くなると手が足りなくなることがある。寝室と保育室は分離しており、子どもたちがそれぞれのタイミングでゆっくりと気持ちよく眠れるよう環境作りをしている。夜間は豆電球にして、気持ちを落ち着かせる遊びや絵本を読み、クールダウンできたところに添い寝をして、入眠できるようにしている。SIDS（乳幼児突然死症候群）対策として、1歳未満児は15分おきに呼吸や身体の向きなどをチェックしている。1歳を過ぎた子どもは、30分ごとにチェックしている。月齢の小さい子どものうち、ベビーセンサーを使用している子どももいる。

③	A11 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 浴室・沐浴槽などの設備やタオル・バスタオルなどの備品は常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の年齢、発達、発育等、個々の状況に応じた入浴方法がとられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴に際し、おもちゃ等を用意し、心地よい体験になるよう工夫している。	<input type="radio"/>

【判断した理由・特記事項等】

お座りができるまでは、沐浴室で日中の温かい時間帯に沐浴を行っている。しっかりつかまり立ちができるようになると、職員と一緒に浴室で入浴している。楽しく入浴できるよう、ジョウロや桶、人形などを用意して、こどもたちは楽しみながら入浴している。タオルやバスタオルは毎日の洗濯で、清潔を保っている。入浴は大人と触れ合う良い機会となっている。

④	A12 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をマッサージなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、排泄への興味が持てるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

排便時は他の保育士に声をかけ、トイレで取り換えているが、排尿時は養育室で他の子どもに目を配りながら、おむつを取り替えている。おむつを替えるときに寝かせられるのを嫌がる子どもには、歌を歌ったり、これを済ませると気持ちよくなるよなどと話しかけながら行っている。トイレトレーニングについては、他の子どものトイレ動作を見て、自分も座ってみたいという気持ちになったときに、トイレに座ってもらっている。一人ひとりの子どもの発達状況を見ながら、自分からやってみたいという気持ちを大事にしている。

⑤	A13 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかかわりができるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 月齢により、収納場所を設け、玩具の個別化をし、自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員の中に玩具係があり、子どもが自由に選んで遊べる玩具や大人が管理して使う玩具など、月齢に合わせてレパートリーを多くして、選べるようにしている。「自由に主体的に」を意識した養育を行い、子どもたちは自由に好きな物を自分で出して遊んでいる。年齢が上の子どもは、みんなで家を作る、模造紙で何かを作る、椅子に座って何かを集中して行うなどの遊びを取り入れて、友だちとの関係を育んでいる。保護者が持ってきた玩具や、個人のおもちゃは自分の引き出しにしまって、好きな時に出して遊んでいる。

(4) 健康

①	A14 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常的に医療機関等と適切に連携するよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 異常がある場合には、医療機関を受診するなど適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> ミルクや離乳食を開始した当初は、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。	○

【判断した理由・特記事項等】

看護師を複数配置し、養育の現場に入っている。毎朝、鼻水、咳、喘鳴、機嫌、ミルクの飲み方など、子どもの状態を確認して記録に残している。元気に目覚める子どもが起きてこないなど、いつもと違うことがあると、一人では判断しないようにして、その日の出勤者で相談して判断している。看護師が出勤していれば相談している。養育者は日常の様子をわかっているの、何がおかしいかをすぐ判断し、受診につなげたりしている。小児科や耳鼻科の嘱託医、総合病院、夜間対応病院などと連携を取り、体調の変化がある時は対応してもらっている。月1回小児科の嘱託医が全員の健康状態の把握を行っている。

②	A15 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
	<input type="checkbox"/> 病・虚弱児等個々の健康状態の変化が、常に把握できるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた療育計画や発達支援計画などを含む支援のプログラム等を作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医による定例的な診断を受けている。	○
	<input type="checkbox"/> 異常所見がみられた場合には、速やかに専門医や主治医に相談できる連絡体制をとっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

医療的ケアの必要な子どもで、喘息のための吸入を行っている子どもがいる。定期的に受診をして、薬も処方されている。薬はグループごとに管理して、職員が与薬している。乳児では、自分で鼻をかむことができない子どもに吸引を行っているが、その他の子どもで、医療的な対応が必要な子どもは、現在はいない。

(5) 心理的ケア

①	A16 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする乳幼児について、保護者等への支援も視野に入れた自立支援計画や養育計画に基づき、心理支援内容が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 心理支援内容には、個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 心理職をおき、乳幼児にも保護者等にも心理的な援助を行える体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関する職員研修やコンサルテーションが行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

心理士を配置し、家庭支援専門相談員と一緒に保護者の支援にあたっている。保護者には、できるだけ面会に多く来てもらっている。特別な部屋ではなく、養育室で面会をして子どもと一緒に過ごし、職員と一緒に養育を行ってもらう中で、心理士は保護者とコミュニケーションを取りながら、保護者の支援を行っている。面接時の親子を見て気になることがあると、職員に連絡してアドバイスをしている。心理士は子どもの発達検査を毎月行っている。チック症状が出たり、指しゃぶりが始まったり、夜泣きがあったりした時の対応について相談にのっている。

(6) 親子関係の再構築支援等

①	A17 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員が中心となって施設と家族との信頼関係を構築するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設が家族と共に子どもの成長を喜び合う雰囲気を大切にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会時に必要に応じて保護者等の養育スキルの向上を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等の相談に積極的に応じるための保護者等面接の設定等、専門的なカウンセリング機能の充実に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員は、家族に寄り添い、保護者等の言葉を傾聴する役割を担っている。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子を写真やお手紙に書いて家族に伝えている。	○

【判断した理由・特記事項等】

家庭支援専門相談員を2名配置し、保護者との関係作りを行っている。子どもの入所時から、できるだけ保護者には来てもらっている。入所を伝えられない保護者以外は、できるだけ面会に来てもらい、子どもとの関係をつないでいる。面会のない子どもには、職員が一对一の時間を多く持ち、「いつも見ているよ、そばにいるよ」という気持ちを伝えながら養育している。

②	A18 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援に関する具体的なプログラムや配慮事項が明記されている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所理由の理解とケアの方向性についてアセスメントしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、施設宿泊、一時帰宅などを計画的に設定し、乳幼児と保護者等との関係性が好転し、保護者等の養育意欲が向上するよう支えている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりがあった場合には、その発見ができるよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 課題の内容によっては適切な機関につなげられるよう、地域の精神、心理相談のできる機関を十分に把握し、連携をとっている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生、親子関係の再構築に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

親子関係の再構築は、児童相談所と連携を取りながら積極的に進めている。入所時の保護者の立ち合いから、日々の面会での調乳の方法、おむつの交換など、親が気兼ねして職員にやってもらうのではなく、一緒にできるようになることを目標にしている。家庭引き取りのケースでは、保護者には家に帰ったときのイメージを持ってもらいながら、養育をしていく体制をとっている。引き取りが難しい家庭でも、親子の良い時間となるようにかかわりを持ってもらっている。お便り係を設け、月1回、「お便り」を配布し、乳児院での生活を知ってもらっている。昨年度は、親元引き取りが8名、親戚引き取りが1名、里親委託が2名となっている。

(7) 養育・支援の継続性とアフターケア

①	A19 退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの退所先に応じて、退所後の生活に向けて必要な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後、施設に相談できる窓口(担当者)がある等、必要に応じた支援をするための体制を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所や関係機関、民間団体等と連携を図りながら退所後の支援を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

退所時には、相談先の1つであることを伝え、退所しても支援は続いていることを理解してもらっている。退所した子どもの家庭には、家庭支援専門相談員と元担当職員が必要に応じて訪問し、子どもの様子や保護者の状態を確認している。家庭訪問では、こんなことで困っているなど、SOSを出してることがある。話を聞き、日中少しだけ子どもを預かる場合もある。家族引き取りとなり、うまくいかず再入所の子どももいるが、ほとんどの家庭では子育てを継続している。

(8) 継続的な里親支援の体制整備

①	A20 継続的な里親支援の体制を整備している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育単位の小規模化による家庭的養護の推進や、早期に家庭復帰が見込めない乳幼児には個々の状況に応じて里親委託を推進している。	○
	<input type="checkbox"/> 里親委託の推進に当たり、里親支援機能の充実などの中・長期計画を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 里親支援専門相談員を配置するなど、里親委託の推進、地域の里親及びファミリーホームに対する継続的な支援の体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 里親委託に当たり、委託に至るまでに里親・児童相談所等と丁寧な連携を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 里親を希望する地域の人を対象に相談を行うなど、支援の取り組みを行っている。	○

相談支援のほか研修、レスパイトを行うなど、里親の状況に応じた取り組みを行っている。

○

【判断した理由・特記事項等】

里親支援専門相談員を2名配置している。児童相談所や里親センターと連携しながら、里親関連のサロンなどを行っている。具体的には里親委託の推進、啓発運動、マッチング、里親サロンの開催、さらにアフターケアなど、様々な活動を行っている。里親のもとに引き取られ、成長した子どもが小学1年生になり、ランドセルを見せに来てくれたりと嬉しい場面も見られる。里親希望者がいても、なかなか条件が合わなかったりすることも多く、困難な場合も多い。

(9) 一時保護委託への対応

① A21 一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。

a

児童相談所と連携して、初期の情報共有とアセスメントに努めている。

○

一時保護を受ける際のマニュアルが整備されている。

○

入所時の健康管理に努めている。

○

感染症やアレルギー等の観察と配慮に努めている。

○

多様な職種が連携・協同し、一時保護後の養育環境(家庭復帰・里親、児童福祉施設等)の確保に向けてアセスメントに基づく支援を行っている。

○

【判断した理由・特記事項等】

緊急一時保護受け入れの際は、感染症の罹患歴、アレルギー情報など、情報を収集するマニュアルを整備して、入所依頼に対応している。入所後も精神科医や嘱託医の協力を得ながら、子どものアセスメントを行い、支援を模索している。

② A22 緊急一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。

b

児童相談所から緊急一時保護を受け入れている。

○

緊急一時保護を受ける際のマニュアルが整備されている。

○

観察室での「観察期間」の実施を順守して対応を行っている。

入所時に、必要に応じて医療機関との連携をはかる等の対応を行っている。

○

感染症や潜伏期間等への対応が十分にできている。

受け入れ後の多職種による連携したアセスメントが実施されている。

○

【判断した理由・特記事項等】

定員に空きがある限り、緊急一時保護を受け入れている。入所に関する判断ができる職員が不在でも、施設長や入所担当者に連絡して、受け入れする体制を整えている。夜間や休日の緊急一時受け入れも何度か経験している。